

平成 23 年度サバティカル研究者（A）研究成果報告書

平成 23 年 11 月 28 日

福岡教育大学長 殿

所属講座・センター 音楽教育講座
職 名 教授
氏 名 橋本 エリ子

受入研究機関等名 東京藝術大学大学院音楽研究科

受入教員の職・氏名 教授・永井 和子

研究期間

平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 23 年 10 月 31 日

研究題目

日本歌曲の歌唱法と演奏解釈に関する研究及び声楽指導法の開発

研究成果概要

東京藝術大学大学院音楽研究科・永井和子教授の元で、特に山田耕筰の歌曲作品を中心として、日本歌曲の歌唱法と演奏解釈の研究及び声楽指導法の開発を行った。

日本歌曲を歌唱するには、基礎となる正しい発声法、日本語の詩の正しい発音及び詩の解釈だけでなく、日本語の歌詞の理解と日本歌曲史の研究及び歴史的背景、作曲家及び作詩者の生涯及び作品が創作された当時の作曲家及び作詩者の心理状態など詳細に資料を分析・収集し、以上の点に関して研究を進めた上で、実際に演習及び講義を視察し、徹底した音楽教育についての見識を深め、音楽性豊かな演奏へと導く指導法と情感豊かに表現する為のメソッドを開発すべく研究を行った。

今回の研究では、特に日本語の正しい響き、詩行のリズムやアクセント、音節、韻律と音楽的特性を分析し、そして山田耕筰が詩をどのように解釈し、作品を生み出すきっかけになったのかを解明し、詩の理解を深めた表現法や作曲家による様式感について研究を行った。

また、声楽指導法の開発においては、詩を朗読し、詩から流れ出る自然な抑揚と言葉の表情を掴むように指導することが最も重要であり、朗読を繰り返し演習や講義の折に、適切かつ効果的に取り入れていくことで、音色や強弱、そして高低、遅速、アクセント、さらには間合いやイントネーションなど語感の要素を生かし、表現することがより可能になることが判った。

従って、言葉のニュアンスや詩の内容や解釈などを含めた朗読法や舞台語発音法の指導を徹底・強化していくと共に、言葉の意味や表情がより明確に伝わるよう、より音楽性豊かな歌唱を目標とした音楽教育をさらに推進していきたいと強く感じている。

最後に、今回の研究を今後さらに続けていくことで、日本歌曲の歌唱法の確立及び教育現場の日本歌曲の指導に役立て、より優れた教育者を育てるべく尽力していきたいと思う。